

議 会 広 報 特 別 委 員 会

日 時	令和 8年 3月 3日（火） 開会中	9時41分 開会 11時08分 閉会
場 所	相良庁舎 4階 第3会議室	
出席議員	（委員長） 8番 絹村智昭 （副委員長） 3番 石山和生	
	7番 鈴木長馬	6番 菅沼保弘
	2番 篠崎朗子	1番 中山尚大
欠席議員		
法第105条出席		
事務局	書記 増田 奈菜子 書記 中田 綾	
説明員		

署名 _____ 議会広報特別委員長

開会の宣告

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

それでは本会議の後の、そしてまた委員会の後、広報委員会のほう、ご苦労さまです。ありがとうございます。それでは、特別委員会のほうを始めさせていただきます。よろしくをお願いします。

2 事件 （1） 牧之原市議会だより「かけはし」第82号について

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

では、事件のほうに入っていきます。

まず、「かけはし」第82号、今回の分になりますけど、編集スケジュールについて協議していきます。

今回、事務局のほうで編集スケジュールを出したので、これ事務局のほうからいいですか。

事務局。

○事務局書記（増田奈菜子君）

それでは資料1、編集スケジュール第82号をご覧ください。

こちらに、第82号の編集スケジュールを掲載させていただいております。

本日3月3日に委員会、かつ3月24日、本会議終了後に2回目の委員会がございまして、ここでページの構成の最終決定をさせていただく予定でおります。

その後、4月6日、月曜日に第3回目の委員会を行い、第4回目の委員会が文教厚生委員会協議会の終了後である4月14日、火曜日を予定しております。

また、最終の確認、委員会が4月22日、水曜日という予定でございまして、その後、正副委員長の最終確認が4月30日、木曜日という予定でおります。

今回、少しスケジュールが早いんですけれども、これにつきましては、ゴールデンウィークを挟む都合で若干早くなっていることと、今回から広報まきのはらの編集スケジュールとなるべく合わせるようにしてございまして、広報まきのはらの編集の最終稿、校了が5月1日となっておりますので、そこを私たちもめがけて編集、校了していくようなスケジュールを組んでいるところでございます。

この内容について、それぞれ皆様のご予定など問題ないかどうかを確認していただければと思います。よろしくお願いします。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

今、事務局から説明があったようですけど、一応こういうスケジュールですが、いかがでしょうか。特に問題ないようだったら、これで行かせていただきますが。

中山委員。

○（中山尚大君）

例えば、別に不満じゃないんですけど、確認と提案みたいな形で、5回目の22日というのは、例えば20日の全協の後とかだと難しいんですか。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

事務局。

○事務局書記（増田奈菜子君）

小山紙店さんのほうで、ゲラ刷り原稿とって、印刷原稿、印刷したものを用意するまでに3営業日必要だと言われております。今、業者の持込みが15日、水曜日の予定なので、そこから3営業日となると20日は難しいというスケジュールでありますが、業者への持込みを第4回目の委員会が終わった後にすぐにこちらで修正して業者に持ち込めば、不可能ではないです。

もちろんこちらで校正する時間、修正する時間がすごくタイトになってはしまいますが、皆様のご予定次第では、全協に合わせることも可能です。

○（中山尚大君）

分かりました。私はスケジュールリングを決めるものではないので、そういった意見検討いただきたいなぐらいです。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

自分からなんですけど、前回の第81号もお詫びがあると、やっぱりしっかり見ないといけないというところがあるので、やっぱりちょっと余裕を持たせて。タイトだと、どこか抜けたりとかするパターンも出てくるかもしれないので、このスケジュールでいけばいいかなと思いますけど、いま一度、どうでしょう。

〔「異議なし」と言う者あり〕

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

このスケジュールでいきます。よろしくお願いします。

続いて、第82号のページ割をする中で、今回、掲載内容が多いということで、20ページにするか、24ページに構成するかを協議するというところでありますが、今回どういう特集ページが出てくるというのは、事務局。

○事務局書記（増田奈菜子君）

それでは、資料2のページ割（第82号）という資料をご覧ください。

こちら2ページ分ございまして、1ページ目が20ページで構成した場合の案、2ページ目が24ページ構成をした場合の案となっております。

まず、20ページのほうの案から確認していただきたいんですが、今回、一般質問が11名出ており、かつ、例年どおりの予定でいくのであれば、資料の中の第78号2月と書いてある部分が去年出したページ構成のものになるんですけれども、表紙から2月定例会の予算まで全部掲載するのに8ページ使っているんですね。これと同じ文量でいくとすると、1ページから8ページまでが2月定例会の報告、かつ、その後11ページ分が一般質問になるので、20ページ、裏面のこの部分しか特集ページが載らないという予定でおります。もちろん、討論だったりとか今後の質疑の量によって、8ページかかるか否かは変わってくるんですけれど、今のところかなりページが足りていない。特集ページを組める状況ではないと見込んでおります。そのため、特集ページは20ページ構成の場合、今回行っている議会広報に関するアンケートの結果を裏面にのみ載せる形を予定しております。

続いて、2ページ目をご覧ください。2ページ目が、24ページ構成にした場合で入れております。通常、先ほどの本会議の定例会の部分は変わらないんですが、請願審査のペー

ジをつくるのに、できれば8ページ、先ほどの8ページはなく、かつ、もう1ページか2ページ使いたいののでそこで使いまして、かつ、一般質問11ページありまして、2ページほど特集記事が組めるという算段であります。こちらに議会広報に関するアンケートの結果ないし議員紹介、委員会の所管事務調査、前号第81号に載せられなかったものですね。それと、議会改革特別委員会のほうで議会改革のスケジュール、こういうことをやっていきたいという案を載せたいという内容をたしかいただいていたと思うので、その議会改革案を載せるページとしてはどうかということで、仮で特集ページを組ませていただいております。

このほかにもご意見がありましたら、また、20ページ構成にするのか24ページ構成にするのかを皆様で協議していただければと思います。よろしくお願いします。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

ありがとうございます。今説明があったとおり、20ページにするか、まずはそのところになると思います。20ページだと、確かに特集ページがちょっと組めないというところがあるし、だけど自分たちの方向性としては20ページで、それでどんどん減らしていこうよというこの間の意見なんかもあったんですけど、そういう状態である中で、皆さんからご意見いただきたいと思います。

篠崎委員。

○（篠崎朗子君）

これからどんどんリニューアルしていきたいというところで、やっぱりここから始めればいいじゃんというところがあると思うんですけども、まず一般質問を、本当1人1ページじゃなくて、ここでちょっと半分にしてみるという試みをするのはどうかなと思うんですけども、いかがでしょう。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

自分もそれはありかなと思っているんですけど、ちなみにこれはもし1ページ、内容に関しては特に、正副議長に。

副委員長。

○（石山和生君）

多分ですけど、このスケジュール感でそれを決めるのは、それこそ正副議長に許可、編集権はこっちにあるんですが、とはいえ、そういう結構今までとは違うあれなので、しっかり通したほうがいいと考えると、このスケジュールで今からそこを議論するかどうか。

そもそも僕、このアンケートを見た感じ、ほぼ皆さん一般質問のところなんですよね。このアンケート結果を見て、もともと半分にする話でしたけど、そこもちょっとどうすべきかという話はちょっとまだ深めなきゃいけないと、僕は思っているんですけどね。

なので、今号からは厳しいんじゃないかと思いますがね。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

ありがとうございます。それこそ資料のほうにアンケートの内容が載っているかと思いますが、やっぱり一般質問、結構皆さん見られているんだなというのを、関心を持っているのだなというのを、確かにすごく大切なところであるなと思っているんですけど。

ここのところはまた協議になってきてしまうんですけど。

副委員長。

今号の話で言えば、24にするだけの予算はあるという状況でいいんですか。

事務局。

ございます。来年度分の予算、24ページ分で4回発行すると仮で決めて取っておりますので、24ページ構成にしても予算上は問題ないです。

9月が今回減っているのです、より予算が。

これは令和 8 年度分の予算で印刷するものになりますので、令和 7 年度分予算とは別です。

副委員長。

そもそも、令和 8 年度は 24 ページも想定して、24 ページになることもあろうかと、こういう予算を組んでくださっているということなんですね。

おっしゃるとおりです。

副委員長。

であるならば、24ページで、ここ、請願審査もやっぱりちゃんと1ページ、もしくは半ページでもいいんですけど、しっかり載せることを考えて、あと議運のほうからは、竜巻関連で、前回出したところから進捗、要望、ちょっと何か動きがあったので、その報告もしたほうが良いということ。あと、この今回のアンケートの結果の話と違って結構書かなきゃいけないことがあると思うので、24ページにしたほうが良いんじゃないかなと思います。今号に関して。

これは私からですけど、あと委員会の所管事務調査、これは絶対入れなければいけないところなので、これはそうなってくると、一般質問をというのは、なかなか厳しいところがあるので、24ページ体制にしたほうがいいのかと思うんですけども、いかがでしょうか。

○議會広報特別委員長（絹村智昭君）

異論がないようなら24ページ体制という形で、今回特集ページが多いという中で、ということ、そういう形でお願いします。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

それでは、3のその他になりますけど、資料を基に、議会広報に関するアンケートが上がってきております。まだ日にちは3月15日までなんですけど、自分の中では、まだこれぼっちというイメージだったんですけど、先ほどちょっと副委員長とお話ししたら、結構来ているじゃんという。

いろいろあるんですけど、まだ3月15日まで、個人でSNSを使ってPRするしかないのも、また地元に戻ってお声がけに行ったりするのもいいと思いますけど、何かご意見。

篠崎委員。

○（篠崎朗子君）

QRをそのまま載せたんですけど、確かにそうなんですけど、これに載ったQRをスマホでというのがあれなので、URLを教えていただけたら、またそれを載せられるなと思うんですけど。

○事務局書記（増田奈菜子君）

承知しました。そうしたら、URLを議会広報特別委員会の皆様のLINE WORKSのほうに流したいと思いますので、そちらをチェックしていただければと思います。あとすみません、私も気づかなくて申し訳なかったんですけど、フェイスブックのリンクが壊れていてうまくいかなかったと話がありましたので、先日直させていただきました。今は飛べるようになっております。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

それじゃあ、そこら辺よろしく。自分たちもそれで協力して、少しでも市民の声を聞きましょう。

事務局。

○事務局書記（増田奈菜子君）

皆様にお伺いさせていただきたいのが、このアンケートについて、3月1日現在56名の方からご回答をいただいているんですけども、再度LINE、それからフェイスブックで回答の呼びかけをすることも可能なんですけど、そちらについてはいかがでしょうか。今、秘書広報課と段取りを組んで、再度掲載することは可能ですよというところまでは話をしているんですけども、皆様のご意見をお伺いさせていただいた上で、正式に進めていこうかなと思っておりますが、どうされますか。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

ぜひ、自分は進めて。締切が3月15日までもうあと10日ほどぐらいしかないのも、やるだけのことはやりたいなという考えでいますけど、皆さんいかがでしょうか。

〔「異議なし」と言う者あり〕

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

そういう方向でよろしくをお願いします。

○事務局書記（増田奈菜子君）

承知しました。そうしたらLINE、それからフェイスブックで再度リマインドという形で、回答期限が迫っております。ぜひこの期間内にご回答くださいという形で再度周知をするようにいたします。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

ありがとうございます。よろしくお願いします。

今日の事件に関しては、委員会に関してはこれで終わるんですけど、何か。

事務局。

○事務局書記（増田奈菜子君）

前回に引き続き、リニューアル案の検討はよろしいですか。それとも次回にしますか。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

副委員長。

○（石山和生君）

リニューアル案のほうを引き続きやっていかなければならない。アンケートも返ってきているので、今の現状でも話せることが増えていると思うので、前回のところ、事務局の方に採用とか、一旦実施とかと書いていただいている資料3を皆さんご覧になっていただいて、さっきのまた上から見ていこうと思うんですけど、一般質問を圧縮というふうに前回では話していましたが、このアンケート結果を見て、どうですか。

アンケート結果を見て、こうだけど、一般質問のページは1ページに2件にしたほうがいいというのもありだと思ったり、この量、ほぼ9割方、一般質問。これわざわざ回答してくれる人は9割方、一般質問を見に、ほぼ一般質問を見に来ているかのような回答の内容ではあるんですけど、そのアンケート結果で、一般質問のページ減らしますって結構ロジック的には変だなと思いつつも、このアンケートを重視するのであれば。

そこら辺の皆さんの意見を聞きたいです。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

篠崎委員。

○（篠崎朗子君）

もしかしたらなんですけど、分かりやすいのが一般質問というだけかもしれないという可能性もあるので、あとは議案に対しての討論ですとか、そういったところの生活に密着した部分のものとかが、今まであまり書かれていなかった可能性とかもあるので、どこかで1回チャレンジはしてもいいのかなと思います。今回は特に予算があるので、そういうところから切り込んでいって、1回小さくしてみるけどまたとか、ちょっと分からないですけど、分かりやすさで一般質問というふうに答えているという可能性も一応頭に入れたほうがいいかなとは思いました。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

中山委員。

○（中山尚大君）

私も篠崎委員と同じような考え方でして、本当にぱっと見てこのかけはしを手にとったときに、一番読みやすいとか手にとりやすい記事として一般質問があるので、そこをみんな言っていらっしゃるのかなと。あとはこの書面のつくり方として一般質問に、今現在、既に割かれているページが多いので、かけはし自体が一般質問がメインのつくり方をされていらっしゃるので、それを応じた上で読んだ上で一般質問に興味があるとか、関心があるみたいな返答をされた可能性もあると思うんですね。

ですので、現在の書面のつくり方があるからこそ、こういう回答という可能性もあるので、この書面のつくり方を変えていったらば、読者の反応も変わってくる可能性もある

ので、その因果関係はちょっとまだ分からない部分はありますけれども、本当に篠崎委員が言うようにチャレンジしてみる、新しくせっかくリニューアルしようというふうな案が出ているんですから、変えてみるというのはいいのかなとは思いますが。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

篠崎委員。

○（篠崎朗子君）

あと、その他の欄とかで、本当に議会で何をしているのかということを書いてほしいという方が多くいらっしゃるの、今の感じだと一般質問が主になってということになってしまうので、例えばその議案に対してみんながどういうふうな調査をしているのかとか、どういうふうに賛否を決めているのかとかというような、もうちょっと分かりやすさとか、ただ立っている座っているとか、賛成反対とかじゃなくて、そこにたどり着くまでの経緯とか考え方みたいなものを、面白い議案に対しては載せていくとか、そういう取組もあると思います。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

菅沼委員。

○（菅沼保弘君）

この一般質問については、ある程度ずっと細かく話を出している掲載ですよ。その状態であって、一般質問しか見ないというか、あのページ数がすごい幅を取っているんですよ。だから、よくここが話題になりやすいんじゃないかなと思っているんですけど、1ページ目の相良の男性で、荒廃農地について茶畑の防霜ファンの問題などという、単純には皆さん困っている内容をもうちょっと挙げてやれば分かりやすくなるので、逆にそちらのほうに進む質問とかアンケートとか言ったらどうか。防霜ファンでいうと、設置して荒れ地にしたけど、何年かは取れないとかそういう規定があるので、そういうのが何年目になっていますかとか、そんな話を出してもいいんじゃないかなと思ったんですけど。

単純には条例で決められていることが、皆さんは条例自体を知らないの、それを説明していくような感じにしていけば、もうちょっと市民に近づくようなことができるんじゃないかなと思います。

以上です。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

副委員長。

○（石山和生君）

今おっしゃっていたような、だから政治ニュースみたいな感じですか。

○（菅沼保弘君）

そうですね。どちらかというと、質問に対して。

○（石山和生君）

政治ニュースみたいなページの話と、篠崎さんは、議案に対して、それぞれの議員がどう考えたのかみたいな話は、1回メモさせてもらって。

さっきの一般質問の話にちょっと戻ると、これは今こういう回答が来ているのは、紙面に割く割合が大きいからだという理解で減らすというのも、僕はポジティブに考えれば、ほかのすばらしい記事を書くためには仕方ないという説明がつくのであれば、僕もいい

と思いますが、一般質問に関してはどうでしたっけ。減らしてもいいと。

○（菅沼保弘君）

一般質問に関しては、減らしても別に構わない。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

篠崎委員。

○（篠崎朗子君）

一般質問に関しては全員分じゃなくて、例えば今回はそこでちょっと試してみようというこの議会広報のメンバーを半分にしてみるとか、それはちょっとまずいですか。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

ある意味公平。

菅沼委員。

○（菅沼保弘君）

一般質問の内容を、今事細かに発表者に頼んでいますけど、それを縮小版をつくりたいので短縮してもらえますかというのは可能なんですかね。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

副委員長。

○（石山和生君）

今、原稿800字と言っているのを400字にしようと言えばいいだけなので、それは全然できると思います。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

あと、このアンケートの中で、顔の写真を小さくしろとかそういうのあって、要はコンパクトにしろというのも入っていた。そうすると、字数も一番あれなのかなと思うんですけど、縮小すれば2倍分うまく形で質問と答弁がしっかり。あとは本人次第という形で収まるのかなとは思いますが。なので、普通に入るとは思いますけど、事務局、そこら辺はどうでしょう、普通に考えて。

普通に400字、もし半分にするなら、通常800字のところを400字、400字の、ちょっと顔とかそういうものを小さめにしてみたいな。そうしたら普通に。

事務局。

○事務局書記（増田奈菜子君）

今、委員長におっしゃっていただいたとおり、依頼文を必ず出すんですね、一般質問の記事を書いていただく委員の方に。その際に400字で書いていただきたいと書けば、依頼ができます。また、事務局側としては、まず議長たちにお話を通した上で、全協で委員長から、今後こういうリニューアル案が出ていますとお伝えする一環で400字にさせていたきたいということをお話しいただければ、より丁寧で、皆様も納得いただけるような段取りを踏んで変えていけるのかなということは思いました。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

鈴木委員。

○（鈴木長馬君）

私も、一般質問は半分のほうがいいかなと思います。それと同時に、例えば、読んでくれる方の質問コーナー。一般の方の質問コーナーに、どういうふうなことを質問したか

ということがあったら、それに対して回答とか、そういうものをするのはどうかなと思うんですけれども。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

副委員長。

○（石山和生君）

それはどうというタイミングでコメントをもらう。例えば、今定例会で一般質問します。その傍聴者の方とかに質問を受けて、その回答をそこでするということですか。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

鈴木委員。

○（鈴木長馬君）

読者の読んだ方の中で、何か疑問とか質問したいことがあったらということなんですけど。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

副委員長。

○（石山和生君）

もしかしたら、ありかもしれないですね。ただ、内容によりますね。言葉が分からないとかだったら全然いけますよね。けど、これはおかしいじゃないかとかとなってくると、賛成なのか反対なのか明示しろとかと言われても、回答できないみたいなこともリスクとしては、そういうのがあるかなと。答えられない内容については答えられないでいいのかとか、そういうのはあるかもしれないけど、一つ案としてはいいかもしれません。質問コーナーということですね。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

中山委員。

○（中山尚大君）

私も今、鈴木委員がおっしゃったようなアンケートみたいなもの。答えられない質問に関しては簡単に答えないというやり方で、答えられるものだけを答えて掲載するみたいなやり方でやっていくのはいいのかなというふうに考えております。

それで、現在のかけはしの記事の全体的な、ざっくりとしたですけれども、記事の性質として、全ての記事が議会に対して興味を持っていて、議会に対して仕組みがある程度理解している方を前提につくっている記事がやっぱり多いと思うので、それだけですと牧之原市全体で本当にそういった読者層って一部だと思うんですね。ですので、そこからやっぱり読者層を広げていくというのは非常に重要なことだと思いますので、そういった意味で、興味を持ってくれるだとか、自分の言ったことに返答してくれるみたいな、鈴木委員がおっしゃったような質問コーナーというのは、すごくよくて、今の読者層を広げるという意味でもいいのかなと思います。

あとは、このアンケートを見ていると、どうしても20代、30代、あと40代もかなり少ないという印象があるので、やはりちょっと若い人たちというのもそういった何かコンテンツ、相互関係が持てるようなコンテンツのほうにより興味を持ってくれると思いますので、そういう若い人に向けてであったりだとか、議会にそこまで興味はないけれども、ちょっと話を聞いてみたいだとか、質問を投げかけてみたいみたいな読者層に訴えるという

意味で、そういった内容はすごくいいんじゃないかなと思いました。

以上です。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

確かに自分もこのアンケートを見て、若い子たちが少ないなというのは自分も感じたところなんですけど、その対策というか、そういうのをこれからまた協議して行って、いい案があったら取り上げていきたいなと。

なので、さっきの鈴木委員の質問コーナーというのも一つの案として、また協議していければなと思います。あとやり方だとは思いますがね。やり方とか、どういう形で。

篠崎委員。

○（篠崎朗子君）

多分、40代、50代以上が多いのは、全戸配布なんですけど、それが例えば、若い層にまで届かないというか、恐らく世帯主さんとかが読んで終わりとかという感じになってしまおうと思うので、どうしてもそうするとSNSの力が必要だなというところを感じますので、そちらのほうにちょっと力を入れていく方向性もありだと思います。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

副委員長。

○（石山和生君）

そうしたら、アンケートから何か抽出する。今の段階ですけど、まだ全部回答終わっていないんですけど、政治的なニュースの話と、議案に対してどう考えたかというのが分かるような話と、市民からの質問コーナーの三つが新たにこういうページがあったらどうかというふうなアイデアとして出てきたと整理しているんですけど、それでよろしいですか。ほかに。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

菅沼委員。

○（菅沼保弘君）

5ページ目の、男性、それ以上相良という人が、その回答欄が途中で切れているような感じがするんですけど。説明は市民に説明とか何とかという、この後の部分。半分ぐらい隠れている。回答欄のところの字がちょっと隠れているようなものを1回出してみてもらって、それをいただくことはできますか。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

事務局。

○事務局書記（増田奈菜子君）

可能です。すみません、本当だったらアンケートが出そろってからまとめたほうが良かったんですが、皆様の意見の糧に少しでもなればと思い、本当に昨日、急遽まとめたので、こんな感じになってしまいました。申し訳ございません。またこの時点のものでよければ、もう少し整えた状態のデータを再度アップロードし直すようにいたします。よろしいですかね。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

副委員長。

○（石山和生君）

そうしたら、それはそのようにしていただいて、1回今の案をもって、資料3のほうに戻りたいというふうに思いますが、よろしいですか。

〔「異議なし」と言う者あり〕

○（石山和生君）

では資料3に戻って、一般質問の話は引き続き1ページ2人の方針でいきましょうと。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

そこで1点。先ほど事務局から話が出たけど、全協での説明。次回の全協でそういう考えでいるよと。

事務局。

○事務局書記（増田奈菜子君）

もし、もうこれで確定だとするのであれば、3月19日が全員協議会ありますので、こちらで報告させていただいて、皆様に説明すれば、次号の編集時点からは間に合います。2月定例会号に関しましては、皆様への原稿依頼を3月10日、そして原稿の提出期限を3月19日ないし25日に予定しているので、ぎりぎりになってしまうか、原稿の執筆中に伝えることになるので、今の時点で400字にしますと伝えるのはあまりよろしくないのかなと思っております。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

今回の2月定例会のものに関してはあれだけど、その次かな、次回のものということになります。

副委員長。

○（石山和生君）

次回以降の話ですね、これ全て。やっています。

1はそのまま、2も特にアンケート云々という話ではないので、そのまま。3も不定期連載。

さっき出てきた市のニュース的なものは、ここに入ってくるイメージなんですけど、もしやるとしたら。ここには議会の仕組みとか議会の仕事とかって書いてありますが、そういうニュースを扱うのであれば、（3）の不定期連載という形、どうかなと思うんですけど、合っていますか。

それを不定期連載の中でやる、やらないは、各号でみんなで話して決めていくということでもいいんですかね。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

よろしいですか。

〔「異議なし」と言う者あり〕

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

ではそういう形で。

○（石山和生君）

じゃあ、それはそれでいいでしょうということと、本当にやるかどうかは、その各号で話したほうがいいですね。例えば、そういう賛成、反対が分かれるようなものをわざわざ扱いにいくのかとか、そこら辺はちょっとしっかり考えたほうが。だからこそ、やる意味があるだろうという考え方もあると思いますし。市政ニュースみたいな。

この中に市民からの質問コーナーってさっき出しましたけど、これも新たな括弧に市民の質問コーナーというのがあると考えて（８）ですか、（８）にそういうのができたとして。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

事務局。

○事務局書記（増田奈菜子君）

（５）にまとめてあります。双方向性の確保の欄に、インタビューにするのか、市民アンケートに答えるコーナーとするのかと記載させていただきました。なので、（５）でここも前回保留にして次回協議するとなって次回に持ち越したもののなので、ここで併せて協議していただければうれしいなと思います。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

副委員長。

○（石山和生君）

そのまま引き続き、今（３）だったけど、せっかく出たので（５）から先に話しましょうか。市民からの質問コーナーみたいなものは、どうでしょう。やれそうでしょうか。実現できそうでしょうか。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

中山委員。

○（中山尚大君）

言ったことと重複なんですけど、私も前回これがあったので先ほど伝えたんですけども、このコーナーを設ける意義は何なのかという意味で、読者層の拡大という意味で、存在する意義はあると思うので、やったほうがいいのではないかなと私は思って、さっき発言いたしました。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

副委員長。

○（石山和生君）

そうしたら、やるならやるで、どういうふうにするかという話に今度移るんですが、定期開催なのか、不定期開催なのかは、どういうふうなイメージでしょうか。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

菅沼委員。

○（菅沼保弘君）

質問内容に対しての回答は、すぐできるものばかりではないんじゃないかなと思っているので、不定期開催で、質問は常時あったとしても、一遍に全部処理できないんじゃないかという感覚があるんですけど、どうでしょうか。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

ほかには。

副委員長。

○（石山和生君）

若干、毎刊質問を募集していくと考えると、定期的にちゃんと前回いただいたものには、一つは返すとしたほうがいいのかと思うたりとかしますが、仮に定期にするんだったら、ちゃんとそれ用にページを押さえるという話になるので、そこのバランスも、どっちもあ

り得るなというふうに考えていますが、ほかの方の意見が聞きたいですね。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

篠崎委員。

○（篠崎朗子君）

そうやって考えると、本当に上がってくるときばかりでもないと思うので、あったときは載せるみたいな感じでいいと思います。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

中山委員。

○（中山尚大君）

おっしゃるとおり、あったときは載せるという形になると思うんですけど、あとはどのレベルの質問を拾うのかというのも、結構問題になってくると思ひまして、前回から話しましたが、政治的に白黒分かれるような発言は難しいので、例えばそこがちょっと具体的に何というとな難しいですが、グレーゾーンな発言は、例えば議長とか副議長の確認とかも必要となるので、そういうものは切り捨てなきゃいけない部分はあると思うんですけども、逆に緩過ぎる質問というのも、どこまでこの委員会が許容してくれるのか。

例えば、前回、増田さんが、他の市町だったら、議員の勝負飯を載せているみたいなところがあったと思ったんですけども、そういったような、かなり柔らかいような記事も、この委員会では許容するのか、それともしないのかというのは、きちんと確認したほうがいいんじゃないかなと思います。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

副委員長。

○（石山和生君）

質問コーナーというのは、答えるのは議会と思っているんですけど、議員を想像していますか。

○（中山尚大君）

議員や議会を想像しています。議会の、だから例えば、質問の内容として、議員個人あれば議員個人が答えてもいいんじゃないかなみたいな。例えば、議員の名前は出さないでも、こういった議員の人がいますよみたいな程度の返答の仕方ができるんじゃないかなという想定で、お返事をしておりました。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

副委員長。

○（石山和生君）

不定期でもいいんですけど、不定期にすると不定期が多過ぎて、結局どれをピックアップするのか毎回結構時間がかかるような。今回の不定期はどれを採用しますかみたいな、というのを毎回詰めることにはなりますけど。その姿勢、それも。

質問コーナーだけど、少なくとも。質問したのに返ってこないみたいな。僕は定期開催にしてもいいレベルかなと思いますけどね、やるなら。どうでしょう、定期開催。毎回載せたらいい。

さっきの、出てこないというのは、別に過去に遡れば多分全然あるんじゃない、たまって。多分、全部返さないですよ。多分返せて数問と考えると、過去の質問もあるから。なか

ったら、なしと考えると、大体毎回やることになるんじゃないかなと若干思いますけど、どうですかね。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

篠崎委員。

○（篠崎朗子君）

すみません、さっきの、話戻っちゃうんですけど、議会として答えるか議員として答えるかというところだったんですけど、アンケートの中で各議員の考え方を聞きたいみたいなことが書いてあるところもあったので、だからすごい扱いが確かに難しいなと思うんですけど、そこは最初から、議会に聞きたいことみたいな感じで決めないと、難しくなるような気がします。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

事務局。

○事務局書記（増田奈菜子君）

一応なんですが、先ほど中山委員がおっしゃった勝負飯を答える質問コーナーは、各議員が個人で答えているような形でした。なので、議会としてまとめた回答を必ずしも出さず、議員として個人の見解、勝負飯しかり、自分が興味のある政治分野しかり、答えてもいいのかなとは思っております。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

副委員長。

○（石山和生君）

想像すると、こういうのを出してくるのは、白黒はっきりさせたい方々がたくさん質問してくることが予想できて、それをずっと回答しないという、何で回答しないんだみたいになるような未来もちょっと見えるんですけど、どうですかね。どういうルールにすれば、それが回避できるのか。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

菅沼委員。

○（菅沼保弘君）

市議会の中で話をする話ですから、個人的なことはしないという。どこか最初のところで線引きをするか、質問に対しての回答できませんというのを出してしまう。質問したけど返事がないというのは。

○（石山和生君）

絶対来ますよね。

○（菅沼保弘君）

来ますので、そこら辺を整理したほうがいいかなと思って。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

事務局。

○事務局書記（増田奈菜子君）

これは別の市の、別件ではあるんですけども、吉田町の町議会だよりでは、議会だよりの記事に対して、当局側の答弁と議員側のつくった記事の内容が異なって、当局側ともめたりとか、市民からこれ違うんじゃないかという問合せが来ることがあるそうなんです

ね。

その対策として、この記事を作成しているのは議員であり、議員個人の私見が混ざっておりますみたいな注意書き文が載っているそうなんです。この質問コーナーにもそのような注意書き文、いただいた全ての質問に答えられるものではございませんという一文と、非常に多くの質問をいただいておりますので、掲載させていただく質問に関しては一部抜粋し、選ばせていただいているものでございます。ただし、皆様のご意見は全ての議員に共有させていただいております。貴重なご意見ありがとうございますと書いておけば、いただいた意見の中から選別して答えやすいものを答えることも可能ではあるかと思えます。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

ちなみに、やり方だけど、一番初めに質問するじゃないですか。質問ってどこから流す。インタビューしていく。

○（石山和生君）

いや、さっきの話だと、アンケートみたいな感じで、ということですよ。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

鈴木委員。

○（鈴木長馬君）

例えば、議会を傍聴して感じる事とか、いろんなことがあると思うんですね。そういうことについても、回答していけばいいじゃないかなと思うんですけどね、そういうことから始めて。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

傍聴となっちゃうと、傍聴の方たちだけとなると、あそこに傍聴席というか、あっち側のところにアンケート用紙があるので、それを拾い出していくという考え方。

○（鈴木長馬君）

そういうのを拾ってですね。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

菅沼委員。

○（菅沼保弘君）

今アンケートをしている内容に対しての質問事項というのが結構ありますので、それに対してまず回答したらどうですか。わざわざ質問をくださいというんじゃなくて、アンケートした結果をまずまとめて、それをお知らせして、それで余裕ができたんだったら質問を入れてもいいんですけど。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

今回のアンケート。今回のアンケートはちょっと、これは一応、そこでの結果報告。

○（菅沼保弘君）

結果報告はしないといけないけど、この言葉に対して全部出せないでしょう。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

まだ、数も相当な、いろんな意見が出ているので、ちょっとそこは厳しいのかなと思うんですけど、新たに市民の声を聞くパターン、政策に関しては新たにやったほうがいいのかなと思うんですけど。

○（菅沼保弘君）

極端なことを言ったら、牧之原市民がどう感じているかまとめてほしいとかということを書かれているじゃないですか。これはとんでもなく幅広くて、何に対してどうなのという話になってくるので、ちょっと答えられないというのはあるんですけど。

だから、ただ、答えられるところと答えられないところで、アンケートに対してまず答えましょうか。ユーチューブやってくださいとか、インスタやってくださいとか、そこら辺は今検討中で予算取りしているところとか、何とか調整ができると思うんですけど。ちょっとどこかで1回考えないといけないかな。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

副委員長。

○（石山和生君）

もう一回まとめ直すと、まずそもそも、この5番は、市民と議会の双方向性の確保という話を実現したい。その手段として、アンケートコーナーや市民インタビューというふうな話も出てきていました。

まず、市民インタビューとこのアンケートは、両立させる方向ですかね。そこをまず。インタビューのみ、市民アンケートのみ、どちらもやるの3パターン、今のところ案として出ていますが、皆さんは。

どっかしかやらないんだとしたら、どっちのほうか、市民との双方向性というものの確保につながるのかは、ちょっともうあれだな。多分アンケートのことばかり話していても、結局やらないんだったら仕方ないので。

ここら辺どう思いますか。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

中山委員。

○（中山尚大君）

今お話を聞いている限り、やはりアンケートで来た質問に答えられない場合が困るということを皆さん懸念されていらっしゃって、そこまで皆さんがそれをマイナス要因として考えるのであれば、このまま話していても、結局そこが解決絶対しないので、多分そこで結論は出ないと思うんですね。

そういった意味では、逆にマイナス要因が少ないとか、現実的にやった場合にトラブルが起こりにくいという意味で、ちょっと消極的な考え方ではありますが、インタビューのほうがいいのではないかなと。これで双方向性というのは補填できますし、読者層の拡大みたいな、コーナー自体の意義みたいなものも担保できますので、いいんじゃないか。ある意味、安心してつくれるという意味で、いいんじゃないかなと思いました。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

自分も個人的にインタビューのほうが、全然下向きじゃない話だと思います。やっぱり市民と関わるというのは大事なところで、これまでやっていなかったことだし、こういうのはすごくいいなと思っているし、アンケートはアンケートで、またいろいろ課題とかも結構出てきちゃうかなというのはあるので、インタビューのほうがやりやすいのかな、動きやすいのかなとは思いますが。

篠崎委員。

○（篠崎朗子君）

そういう意味では、アンケートを募集するというよりも、市民のインタビューを受けた人を募集する欄というのつくっておけば、それでかけはし的な役割が出るんじゃないかなと思います。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

中山委員。

○（中山尚大君）

あと、このインタビューというと、特定の市民の方、一方にフォーカスして、その方から意見を引き出すみたいなイメージが出ちゃうんですけど、例えば対談コーナーみたいなものとか、鼎談とかそういうふうになんかそういう対等の立場で意見交換の場みたいなものをつくって、そこで出たお話を記事にするみたいなやり方であると、非常に双方性も出ますし、議会広報特別委員会がやっているという意味合いもあるんじゃないかなとは思いました。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

副委員長。

○（石山和生君）

僕は結構オペレーションのことをずっと考えちゃうので、それができる範囲ということ僕は考えるんですけど、僕はインタビューを各委員が、推薦人なのか、出たい人を探してくれればいいんですけど、我々でしっかりインタビュー項目を決めて、それをしっかり聞いてくると。

対談、理想ではあるんですけど、多分、相当大変で、我々のメンバーで、事務局にも負担をそこまでかけずにやれるという観点でいくと、僕はインタビューでしっかりと、みんなでインタビュー項目を決めて、2人で1人、ペアじゃないんですけど、分からないけど、インタビューをしに行くなり何なりでそれを載せるのであれば、結構できるかなというふうに思っているんですけど、どう思いますか。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

菅沼委員。

○（菅沼保弘君）

やっぱり人によって考え方がるので、その考え方を引き出すというよりも、こちらで指定した内容に対しての向こうの意見を事前に連絡しておいて、こういうことでインタビューさせてもらえませんかとしておけば、そんな逸脱はしないと思うんですけど。それがどのレベルかというのはちょっと難しいところで、市政に関係している人はそのまま言えるだろうし、全然関係なく田畑を耕している人は、自分の都合を言いたいだけなので、そういうところをちょっと調整しないといけないかなと思います。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

副委員長。

○（石山和生君）

篠崎委員が言った募集、インタビューしてもらいたい人は、確かにやったほうがいいのかもしれないですね。それプラスオン、ライオンズとかいろいろ地域団体みたいなところのトップの人とか、そういったところに声をかけて、アンケート項目もやっぱり議会に対

することです。議会に求めることって何ですかとか、議会というのをやっぱりテーマにして、学校再編どう思いますかとかだと大変だと思うので、議会というものに対して期待することだったりとか、そういったものを、市民の議会への思いみたいなのを書いていくみたいなものであれば、オペレーションも多分そんなに、我々でしっかりインタビュー項目を決めて、事務局としては我々がインタビューしてきたものをまとめるだけということであれば、事務局の方もそこまで負担が増えずにやれるのかなと、個人的には思いますけど、どうですか。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

自分は個人的にいいなと思う。これはちょっと、自分たちも動きやすいというか、いいなと感じました。

事務局。

○事務局書記（増田奈菜子君）

そうしたら、身近で議会だよりの中で、市民アンケートを行っている島田市に具体的な実施方法だったり取材の段取り、あと質問項目が、例えば島田市議会さんだと消防団員の方にお話を聞いていて、消防団員の数は減少して高齢化が進んでいると聞いていますが、どのような対策をお考えですかとか、結構踏み込んだ質問とかもしているんですね。この辺りをどこまで広報で決めているのか、それとも広報全員じゃなくて担当する議員さん2人ぐらいで毎回インタビューを行っているそうなんですけど、この2人で決めているのかなど、もうちょっと詳しい話をお聞きした上で、次回、具体的にインタビューをやるとしたら、どういう手段が取れるのかをお話できればと思ったんですが、いかがですかね。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

副委員長。

○（石山和生君）

まとめると、（５）は市民インタビューのほうにちょっと注力してみようということで、これは定期開催でいいですか。年に４回なので、しっかりと計画を組んでやれば、できなくもないんじゃないかなというふうには思います。

人の決め方とかそこら辺の細かいのはさっき言ったように、またちょっと別の日程で詰めたらいかなというふうに思いますので、市民インタビューを定期開催ということで、一旦（５）は進めるということをお願いします。

（４）に関しては、これはビジュアルの話か。ビジュアルというわけでもないのかな。ビジュアルか。ビジュアルの話という理解でいいですか。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

事務局。

○事務局書記（増田奈菜子君）

こちらの内容、ビジュアルの話も兼ねているので保留にして、取りあえず（５）を話そうと前回の委員会で話して、結局飛ばしたのになります。ただ、コンテンツとしてちょっとかかる部分もある、質疑を市民が興味を持てるものにピックアップして掲載するだったりとか、QRコードを活用するも、少しコンテンツにかかってくるころではあるので、可能であれば、この時間に話していただきたいとはっております。

そもそも、そのビジュアル面の内容だったりとかを全て飛ばしてこのコンテンツについ

て話しているのです。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

副委員長。

○（石山和生君）

ビジュアル面で、今回話も多分時間的にはできなくもないと思うので、（６）（７）だけ、多分そんなにかからないので、先に。

（６）だけ、議会と身近なものとのコラボということが、前回のあれがあって書かれているんですけど、これは地元の人とのコラボみたいなのは、このインタビューに入ってくるという理解でよろしいですか。それであれば、（６）は（５）に吸収されるというような理解で大丈夫ですか。

それは（５）に吸収されると。

（７）が、これも完全にビジュアルの話ですね。これは完全にビジュアルの中でも本当に見た目、（４）のほうはそもそも、今あるコンテンツを減らすか、増やすかみたいな話ですよね。

ここの議案とかの質問事項に関しての数を減らしたほうがいいんじゃないかみたいな話も前回出ていましたけど、そこら辺に関して、改めてどう対応すべきかを、ご意見を持っている方はいらっしゃいますか。（４）で議案、質疑の個数みたいな話ですね。

個人的にはそんなに多いとは思っていないんですけど、今の現状が。ただ、そういう声も出ていたと思うので、どう思いますという。どういうふうに、減らすんだとして、減らして何を足すというか、ビジュアル的な、もっと図を増やすという話なのか。今は多分、全体のページで図が２個か３個くらい載せるという感じになってはいますが、どういうことを想定しているのかを、ここで話しておいたほうがいいのかもしいかなですね。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

鈴木委員。

○（鈴木長馬君）

問いと答えについて、その辺の答えの部分を簡潔に分かりやすくまとめるぐらいにすれば、個数は減らさずにいけると思うんですけど。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

副委員長。

○（石山和生君）

それは今、質問と回答100文字とかでしたっけ、50文字とか。

それをもっと簡素化したらいんじゃないかというご意見ですね。なるほど。それもあるかもしれない。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

中山委員。

○（中山尚大君）

議案が多過ぎるんじゃないかというお話に関しては、多いか少ないかというのは個人の感覚だと思うんですけど、今はある程度、箇条書で並んでいて、どれが重要なのか、どれが話題なのかというのがやはりちょっと分かりにくいものなので、もっと絞って、例えば前回の議案であれば、副市長を２名にするかしないかというところとか非常に大きく意見

が分かれて、かなり皆さんが意識していた議題だと思うんですけども、ああいったところだけをピックアップするというやり方も、読んでいる側としては面白いんじゃないかなと。面白いというか、関心を持ってくれる方が多いんじゃないかなというふうには思いますので、ああいう、そのときに話題になったもの、皆さんちょっと意見が分かれたものだけをピックアップするというのもいいのかなとは思いました。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

篠崎委員。

○（篠崎朗子君）

例えば今回の議案で言えば、水道事業給水条例が変わったとかというのを絵に、今まではこうだったけど、災害時はこういう人たちが事業できるようになりましたよみたいな、そういう絵でちゃんと説明できるもの。あと、議案第28号の市道路線、大江のこういうところが今度造られますよみたいな、そういう具体的にイラストで載せられるような分かりやすいもので、市道に関しても、市民の皆様にとったら大きなことなので、東中はちょっと太めの橋になりますよとか、そういうようなことをその都度、その都度議案の中でピックアップして、分かりやすい説明をしていくのはどうかなと思います。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

副委員長。

○（石山和生君）

今のは、議案のそもそも質問と答えという形ではなくて、議案自体の説明にすることですか。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

篠崎委員。

○（篠崎朗子君）

大体、全会一致というところだったら、その議案に対する説明でいいと思うんですけど、分かれた場合というのは、それぞれがどういうふうに考えたかというところも含めて、そういうふうに図で何かつくれたらなと思っています。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

事務局。

○事務局書記（増田奈菜子君）

今の篠崎委員がおっしゃったことと合致するか分からないんですけど、狛江の狛江市議会だよりというものがございまして、この1個の記事の右側に具体的な議案の内容、こういう議案ですよというのが載っておりまして、左側にこんな質問がありますと、その議案に対して質問があった内容が載っているんですね。ここが絵になったりとかするイメージということでよろしいですかね。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

副委員長。

○（石山和生君）

それって1ページ使っているんですか。4分の1ページ。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

事務局。

○事務局書記（増田奈菜子君）

これが一つの議案で、A4の半分使っています。見開きでいくと、4つ議案が載る。ただ、タイトルとかが載っているのでもちよつとずつ違ったりとか、ここに2ページ使ったりとかしているんですけれども、かなり大きく、一つの議案をピックアップして使っているような印象です。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

これでさらにイラストが入ってくるということだよ、イメージ的には。写真なり。

○（篠崎朗子君）

例えば、大江のどこがどう。例えば東中橋が分からない方でも、東中橋がちょっと太くなってすれ違えますよとか、そういうところで。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

自分も見たい目はすごくいい感じだなと、とっつきやすいなと、自分は感じたところなんですけど、これをやるかやらないかの話になってくる。

中山委員。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

中山委員。

○（中山尚大君）

ちょっと話はずれてしまいますけれども、そういった読みやすさという意味で、文体のもう少し分かりやすさも検討していただいたらいいのかなとは思っています。やはり今の文体はちょっと硬いですし、どうしても。本当に公式文書みたいな感じになってしまっているの、それよりは中学生にも分かるというテーマがあるように、中学生がぱっと読んでも分かるようなものがあるのかなとは思っています。

アンケートでも、読みにくいという意見が多少ありましたので、それも含んだ改革かなとは思いました。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

副委員長。

○（石山和生君）

ビジュアルの話は、今言っていたように、ここの議会のこのビジュアルをまねしましょうというのを、みんなでどこの議会がいいねというのを話して、そっちの方針に合わせていく。議案の取り扱い方も、今のうちとは全然違いますよね。うちはぎゅうぎゅうに入っているけど、それは本当にピックして、中山委員が言うように、5個ぐらい今出ているのを、恐らく2個か3個ぐらい。

そもそもページ数、ページ割自体が多いですよ、僕たちの。そんなことない。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

事務局。

○事務局書記（増田奈菜子君）

狛江市議会だよりは、全部で16ページございまして、そのうち議案に2ページ使っております。かつ、その2ページに、本来私たちが別で載せている議案の一覧も全て載せていて、議案の質疑が五つ、気になるようなものをピックアップして、そこに反対討論があった議案だったりとか、質問と答えがあったりとか、それ以外に意見が出たものに関しては、

ここに載せているような形です。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

副委員長。

○（石山和生君）

狛江市を真似するでもいいなと思いましたが、そこを1回話して、これの方向に沿ってやりましょうとやっちゃっても、まずこの方針としてはビジュアルの話ですね。ビジュアルと、あと議案の質問ピックアップ数とか、そういうのは一旦皆さん1回持ち寄って、次回、ここの狛江市は、今見た感じすごい、いいなとは思いましたがけれども、ほかにも、この企画ページはここの市議会のこれをまねしようでもいいと思うので、何か持ち寄ったほうが。持ち寄って、ビジュアルに関して、あとピックアップ議案数とかに関しても、いいところを参考にしてしまうという方向がいいかなと思ったんですけど、どうでしょうか。

（４）と（７）に関してはですね。

なので、（４）のほうは一般質問のレイアウトも、ここの議会のこのレイアウトいいんだよね。だからそれを半分のページ版にやりましょうみたいな、具体的に持ってきて、みんなで話すというのをやったほうがいいかなと思ったんですけど、どうでしょうか。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

次回になるところ。

鈴木委員。

○（鈴木長馬君）

そもそも元へ戻っちゃうようなことなんですけど、いいですか。例えば、縦行の文章を横行にするとか、今、横行のほうがほとんどなものですから、その辺もしたほうが見やすくっていいじゃないかなと思うんですけども。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

副委員長。

○（石山和生君）

まさに今のものとか完全に横だったと思うので、それも含めてこの議会のこの議会だよりのこれがいいよというのを皆さんで持ち寄って、これをまねするという方針を次回は決めてしまったほうがいいかなというふうに思っていますというのと、あとはそもそもなんですけど、大幅なビジュアルリニューアルになると思うんですよ。これって小山さんからしたら、毎年決まった型をちょっと修正する程度で済んでいたと思うんですけど、そこに関して、新たな予算とかが普通に考えると必要な気がするけど、そこら辺どうなんでしょうかという。もしそれが高いのであれば、まねができる範囲なんだったらC a n v aでつくるとか、そういう話もあるかもしれないんですけど、そこら辺ってどういう考えでいたらいいですか。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

事務局。

○事務局書記（増田奈菜子君）

まず、小山さんに先週のスケジュール調整の件も合わせて、具体的にどのような編集作業をしているのか聞いてみたところ、P D Fをパソコンで取り込んで、P D Fを編集できるソフトがあるので、そこに直接打ち込んだりとかして細かいところは直しているような

んですが、基本的に変わってくるのはフォントのみで、ビジュアル面は大体それで落とし込めるということを聞いています。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

副委員長。

○（石山和生君）

それは、こちらである程度デザインをつくった上で、微修正だけしてもらっているからということですよ。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

事務局。

○事務局書記（増田奈菜子君）

小山さんが言うには、こちらが作ったPDFのデータを取り込むと、大体その形に出来上がってくるらしいんですね。と聞いているんですが、一旦そこは確認してみます。聞いた話だと、この前誤字があったというところを中心に、私はそのとき聞いたんですけども、取り込んだときの誤字自体はそんなに起きるようなものではないとも聞いているので、ビジュアルが変わったからといって大幅にお金が変わる、印刷金額が変わることはないと思うんですけども、そもそもカラー刷りであること自体も変わりませんし。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

副委員長。

○（石山和生君）

僕が懸念しているのは、大幅なリニューアル、デザインは基本的にはこちらでワードにつくって、それをPDFにして送っているんですよ。それを、ただどさすかにリサイズしているはずなので、いろんなことを修正していると思うので、それはしているとは思いますが、そもそもワードでできるの問題というのは、ちょっときれいなものをまねしようという、それワードでできるの問題というのは。

ワードでできる範囲でやろうという方針なのか、いや、そうじゃなくてCanvaなり何なり使ってやろうという方針なのか、これでも結構大きくビジュアルの話では変わってくると思いますけど。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

事務局。

○事務局書記（増田奈菜子君）

部局側の意見としては、Canvaは私も個人で使っているんで分かるんですが、勘弁していただきたいと思っておりまして。というのも、まず無料と有料で使える素材が違っておりまして、ちゃんと見ればいいんですけど、誤って有料版の素材を使ったりということがあったら怖いというのが一つ。もう一つが、石山委員は今回一般質問されると思うんですけども、我々のパソコンはインターネットを使っていないので、個人のパソコンからはCanvaが使えず、インターネットのパソコンに張りついて編集するしかないというのは、ちょっと大変かもなということを思っております。

また結局、Canvaでの作業もワードとやっていることはそんなに変わらない。段をつくって移動させてというところは、そんなにワードと変わらないようなイメージを持っております。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

副委員長。

○（石山和生君）

ワードで微修正、例えば、それと同じようなものをワードでつくったら、追加予算なしでちゃんとやってくれるのかということですね。僕が確認したいのは。小山さんが、今までとは全くビジュアルが変わる、今までの型みたいなものは使えないと僕は思っているの、まずそこですよ。そこが変われば、ワードのほうが事務局がやりやすいんだということであれば、我々としては別に。

なので、ちょっとそこの、仮に例えば狛江市のものを見せて、ワードである程度つくったものを提出したときに、これと同じようなふうにできますかみたいな。特にワードで大変なのは、画像を入れたときに、上か下か、レイヤーという概念が存在しないので、右クリックして最前面に入れるとか、そういうのを延々と、特にイラストを豊富に使ったりとかしていくと考えると、若干厳しいんじゃないかとは思いますが。

事務局がいいというならいいんですけど。

少なくとも、まだパワポでやったほうがいいんじゃないかとかね。パワーポイントないですよ、レイヤーという概念。

レイヤーがないから、結構ちゃんとイラストとかががんがん使っていくんだと大変な気がしますけど、やってみて。

だけど一番困るのは、さあ次回の号をやってみようと、次回は今回のそのあれで。リニューアル号をやってみようというって、やっている最中に全然終わらなくて、出せる状態にないみたいなことにならないかだけは、ちょっと心配ですけどね。なので、そこら辺の事務局的なオペレーションというのが大丈夫そうかの確認も同時に。多分ビジュアルが変わるというのは結構、今までだってあれですよ。事務局も、今までの過去のを多分消して、そこに追加するだけとかという作業が、ビジュアル本変えとなると、1から一つ一つのページ全てレイアウトを考えてつくって、事務局が負担するとなると、まあまあ大変だと思うので、そこら辺も。

ただ、やるにはやるしかないの、それをどういうふうにやるかというのは、ちょっと1回、ここでもしっかり話したほうがいいかもしれないけど。

ワードしかできませんと言われたら、じゃあワードで。

○事務局書記（増田奈菜子君）

ワード、エクセルとパワポ。

○（石山和生君）

C a n v a というか、イラレとかでもいいんですけど。

○事務局書記（増田奈菜子君）

イラレは、でも、A d o b e を入れないといけないので。

○（石山和生君）

別にそれは予算を入れればいいじゃないですかって話ではあるんですけど。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

事務局。

○事務局書記（増田奈菜子君）

イラストレーター等の編集ソフト入れる案も、実は過去に出ていたんですね。なんですが、それが却下された理由が、広報まきのはらは毎月出すものですが、議会だよりに関しては年４回しか出さないものになりますので、これに対してイラストレーターをわざわざ入れて編集するのはどうかという話があって、イラストレーターを入れないという話にそのときはなったという経緯がございます。

もし、今から話してイラストレーターを入れるのであれば、再度協議が必要かなとは思っています。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

中山委員。

○（中山尚大君）

今おっしゃっていたことで、ソフトウェアの使い方とかの話だと思うんですけど、今の粕江の記事を見ると、何が魅力的なのかなというのと、やはりレイアウトというのが、文章の位置と色調が統一されていることだと思うんですね。イラストは確かに挿入されていますけれども、別にイラストはあってもなくてもそこまで記事の魅力度ってあまり変わらないと思っていて。ですので、そこで、どこまでこの魅力的な記事があったとして、どこまでまねをするかということと、現在のワードでの編集スタイルでどこまで実現可能かとのすり合わせをすればいいだけなのかなと思います。

例えば、色調が統一されているのがすごいすてきだと私は思ったので、そういった意味では、今回、次回の記事は、例えば牧之原市って青とかグリーンのイメージがあるので、そういった色調に統一するだけでも大分ビジュアルイメージって変わると思うんですね。そういった意味で、ワードなりでできることで、ちょっといい部分を取り入れていくという。あまりとっぴなイラストなんかも入れまくるみたいなことはしないという方向性がいんじゃないかなと思います。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

副委員長。

○（石山和生君）

なので僕も、ワードでできる範囲でやれることをやるという方針でもいいですし。なので、それを次回、こういうのにしようということと、技術的にそれが可能かというところまで次回決めてしまったら、あとはページ割の話になるだけだと思うので、ビジュアルも決まり。そのビジュアルが実現可能かどうかはそのとき事務局と話しながら、多分その場では判断できない可能性もあるのでという感じですね。

あと、ページ割の話もしないといけないと思います。一般質問が半分になったとして、不定期連載ページは毎回何ページくらいはありそうだというのは多分分かる。定期的に、過去の慣例上やっている不定期連載はこういうのがあって、我々が言っているような不定期連載は果たして入るのかとかね。そこを話して、ある程度大枠が決まったら、その先のさっきのインタビューの項目は何にしようとか、市民に向けたコンテンツは何にしようとか、そういう話になってくると思うので、まずは大枠の話を次回。

次回はいつでしたっけ。

○事務局書記（増田奈菜子君）

３月２４日です。

○（石山和生君）

3月24日に、ほかの市議会のここがまねしたいというのを皆さん持ち寄るということですか。確実に必要なのは、議案の質疑の部分と、一般質問の部分は、確実にここがいいなというのを1人1個くらいは持ってきてほしい。表紙とかもあるかもしれないけど、表紙もか。いいか、表紙は一旦。

この二つは確実に、ここの市議会よかったなというのを持ち寄って、次回、ビジュアルの方針を決めるということで、よろしく願いしたいですけど、いいですか。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

よろしいですか。

中山委員。

○（中山尚大君）

確認だけさせていただきたいんですけれども、議案の質疑のいいデザインをピックアップしてくるというお話で、自治体によってもピックアップの程度って違うと思うんですね。例えば二、三個しかピックアップしていないところもあれば、大きくピックアップしているところもあって、それによって考え方とかも違うと思うんですけど、そこはこちらの委員会の方針みたいなものというのは特に考えずに、自分の好みで持ってきてしまって大丈夫ですか。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

副委員長。

○（石山和生君）

まず自分の好みで、このくらいのピック数がいいいでしょうということも含めて持ってきてもらったら。何個も持ってきてもらってもいいですよ。なので、ビジュアルとピックする個数って結構相当関連していると思うので、それをゼロから考えるんじゃなくて、優れているところからまねしようというほうが全然楽だと思うので、そっちの方向で各自持ってくるでいいんじゃないでしょうか。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

篠崎委員。

○（篠崎朗子君）

その持ってくる資料に関しては、先に提出してこちらで共有。

○（石山和生君）

提出期限を決めないで。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

後ほど。

事務局。

○事務局書記（増田奈菜子君）

提出期限も含めて、本日の振り返りをちょっとさせていただければと思います。

まず、資料3の中の1番、一般質問のページの圧縮。これについては引き続き採用で、1人2ページにする方向で進んでいきたいと思います。また、3月19日の全協にて、こちらで出たこの話を報告させていただければと思います。委員長、よろしくお願いします。

2番、これについては前回決めておりますが、議員紹介のページを一旦実施し、不定期

連載とするかは後ほど決めるということで、一旦定期連載として6月定例会から採用したいと考えております。

3つ目、市民に向けたコンテンツとして、こちらに書いております議会の仕組み、用語解説、それから中学生、高校生にも分かりやすい議会紹介、議会の仕事の紹介のほかに、市政や市のニュースなどを載せるコーナーを不定期でつくろうと思います。

4つ目、紙面に掲載する内容を簡略化・省略化し、分かりやすくするについては、次回皆様に、一般質問、それから定例会の内容の質疑等でビジュアル面で優れている議会だよりを幾つかピックアップしていただいて、事務局に提出していただければと思います。事務局のほうで3月24日の委員会までにまとめまして、それぞれ掲載させていただきたいと思います。

提出期限についてですが、こちらの都合ではございますが、少し期限がほしいので、19日、木曜日はいかがでしょう。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

大丈夫です。事務局にお任せします。

○事務局書記（増田奈菜子君）

よろしいですかね。では、3月19日、木曜日までに、それぞれご提出いただければと思います。PDFであるとうれしいですが、URLを送っていただいても構いません。こちらでダウンロードして掲載するようにします。

こちらについては後ほど、19日の締切で予定を入れさせていただきます。

続きまして5番、市民と議会の双方向性の確保、これについては採用で、定期連載でインタビュー記事を書きたいと考えております。私のほうで下田市議会さんのほうに、具体的にどのように段取りを組んでインタビューをしているか、確認をしたいと思います。6番については5番と統合されておりますので、そこをさせていただいて、7番、こちらについてもビジュアル面の話になるので、4番の議題と併せて次回話させていただければと思います。

ここまで聞いていて、漏れ等はございませんか。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

副委員長。

○（石山和生君）

補足で。さっきほかの議会の議案の質疑と一般質問のところと言いましたが、7番の表紙の話と、さっき中山委員が言ったテーマカラーみたいな話も含めて、ピックアップしてもらいたいなと思いました。

以上です。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

そういう形で、ちょっと宿題が出ましたけど、3月19日まで、また皆さんよろしくお願いします。

今日はそんな感じですけど、特にそのほか。

〔「なし」と言う者あり〕

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

事務局。

では、よろしいですか。以上をもちまして、議会広報特別委員会のほうを終了いたします。本日はありがとうございました。

〔午前 11時08分 閉会〕